

一 般（個 人）質 問 通 告 一 覧 表

令和 6 年第 4 回笠岡市議会定例会

6 月 1 9 日・2 0 日（2 日間）

通 告 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨	答 弁 者
1 加藤 義久	1 笠岡市小中 一貫教育推進 計画の今後に ついて	笠岡市小中一貫教育推進計画については様々な議論が行われ、まず現金浦中学校敷地内に金浦中、金浦小、城見小、陶山小を統合した「施設一体型小中一貫教育校」を、2028 年度開校予定と認識していましたが、栗尾市長は当選後の 5 月 15 日、金浦地区で計画されている施設一体型小中一貫教育校の整備について、「まずは人口の将来予測に基づき、市全体の学校配置を見直すべきだ」と述べられ、計画を一時停止する考えを報道陣の取材に対して答えられています。 （１）今でも考えに変更はありませんか。 （２）人口の将来予測に基づき、市全体の学校配置を見直す必要性を訴えられており、私も同意するところであります。この課題は教職員数や施設維持費等を含めて、スピード感を持って計画とスケジュールの策定が必要であると思われますが、その方向性をお示してください。 （３）高梁市においては 10 年先を見据え、一定の条件を掲げ、小中学校の適正配置計画を策定しています。 このことに関する本市の考えをお尋ねします。 （４）現計画を一時停止し、新たな計画に基づいて事柄を進める場合、一つ気になる点があります。それは現計画に真摯に向き合い、尽力された関係者、特に地域の皆様への説明責任です。いつ、どのように対処されるかお示してください。	市 長 〃 〃 教育部長

	2 交流人口増による笠岡経済の活性化について	笠岡市への観光客は、直近のデータによれば年間約 102 万人であり、その約 7 割、約 72 万人が「道の駅笠岡ベイファーム」を訪れています。 折しも、令和 7 年度を目途に全線開通する一般国道 2 号笠岡バイパスや、(仮称)篠坂パーキングエリアスマートインターチェンジが新たに設置されることなど、広域交通幹線網が進んでいることから、本市へのアクセスはより容易となり、今まで以上に広範囲からの観光誘客が見込まれます。これを千載一遇のチャンスと捉え、スピード感を持って「観光地としての笠岡の地位確立推進事業」を実施し、交流人口を増やすことにより笠岡経済の活性化につなげていく必要があると考えます。 (1) 「観光地としての笠岡の地位確立推進事業」は、令和 7 年 3 月 31 日までと認識していますが、進捗状況についてお尋ねします。 (2) 「道の駅笠岡ベイファーム」のさらなる魅力アップへの取組についてお尋ねします。 ※飲食店、名物料理、展望台、オートキャンプ場、テーマパーク、自然との調和、また、笠岡のシンボルである「カブトガニ」の活用について (3) 菜の花、ポピー、ヒマワリ、コスモスといった四季を彩る花々を楽しみにお越しになっている観光客が多いようですが、近年排水の関係から開花の状況が優れず、一部の品種では生育しない状況も見られると聞きます。重要な役割を担う「観光資源」としての今後についてお尋ねします。 (4) 「道の駅笠岡ベイファーム」と連動した、観光客の回遊範囲を広げる取組が大切であると考えますが、本市の考えをお尋ねします。	関係部長 〃 〃 〃
--	-------------------------------	---	--

2 大山 盛久	1 貫閲講堂と 県庁門について	佐藤貫一氏の寄附により笠岡市立笠岡小学校の敷地内に建っている貫閲講堂は、建築から 83 年近い年月を経ており、令和元年 8 月までは現役の講堂として学校行事、地域の行事等で使われていました。旧笠岡町の人にはかけがえのないものだと思いますが、市長も御存じのとおり現在は老朽化が進み立入禁止となっています。 (1) 貫閲講堂はこれから先どのようにするかお尋ねします。 (2) 県庁門も同じように年月が過ぎている建物だと思います。これから先どのようにするかお尋ねします。	市 長
	2 分庁第 2 の 跡地について	令和 5 年 12 月の定例会での森岡聡子議員の質問に対して、総務部長から 11 月にサウンディング型市場調査をし、その結果も踏まえて、駅周辺のにぎわい創出と活性化、さらに駅周辺の課題である住む場所、泊まる場所の確保に資するマンションやホテル等の民間開発を誘導できるような条件で土地の売却の公募を考えているとの答弁がありました。現在は駐車場として使用されていますが、近い将来どのようにするか市長のお考えをお尋ねします。	市 長
	3 ごみ袋の有 料化について	ごみ袋有料化を実施することにより、新たな負担が生じることとなりますが、一般的にその負担は排出量に応じたものとなることから、費用負担の公平性の確保が図られるとともに、さらなるごみ減量・リサイクルにつながる事が期待されます。また、ごみの排出量を削減することにより、収集部門及び処分部門における経費削減が見込まれます。 ごみと資源を分別することで資源は再利用され、その結果ごみの量は減るのです。また、分別されたごみは、その分焼却効率も良くなり、焼却炉の寿命や埋立地の延命につながります。	市 長

		前市長は有料化を進めていましたが、栗尾市長はどのようなお考えかお尋ねします。	
3 井木 守	1 市政運営にあたっての市長の基本姿勢について	日本国憲法は、92 条から 95 条で地方自治について定め、91 条は、「地方公共団体の組織及び運営に関する事項は、地方自治の本旨に基いて、法律でこれを定める」とし、地方自治法は、第 1 条の 2 で「地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする」と定めています。市長をはじめ、議員も自治体職員も、この憲法と地方自治法の定めに従って各々の職責を果たすことが求められています。市長の認識をお尋ねします。	市 長
	2 子育て支援策について	私たちは、子育て支援策として①学校給食の無償化②子供の医療費の 18 歳まで通院も無料に③子供にかかる国保税の均等割の減免などを求めてきました。 これらについて市長の考えをお尋ねします。 (1) 「学校給食の無償化」について (ア) 現在学校給食費は月額いくらですか。 (イ) 無償化には、いくら予算が必要ですか。 (ウ) いつまでに実現しようとされていますか。 (2) 「子供の医療費、18 歳まで通院も無料に」について (ア) 18 歳まで通院を無料にすると、いくら予算が必要と見積もっていますか。 (イ) いつまでに実現しようとされていますか。 (3) 「子供にかかる国保税の均等割の減免」について (ア) 子供にかかる国保税の均等割の実情はどうなっていますか。	市 長 〃 〃 市 長 〃 市 長

		(イ) 均等割の減免も子育て支援策になると 思いますが市長の考えをお尋ねします。 高齢者の「聞こえ」を保障するための補聴器購入補助制度は、認知症対策にも有効との理解が広がり、補聴器購入補助制度を創設する自治体が増えています。また、買い物や通院といった高齢者の日常の移動手段の確保も喫緊の課題です。以下、質問します。 (1) 高齢者の補聴器購入補助制度について、 笠岡市で実現する考えはありますか。また、 実現した場合、年間でいくらの予算が必要 と考えていますか。 (2) 高齢者が自分の「聞こえ」の状態や補聴器 等の必要性を理解する上では、健康診断に 「聴力検査」を加える必要があると思います がいかがですか。 (3) 社会福祉協議会において、通院の付き添 いや買い物代行などのボランティア活動が 行われていますが、笠岡市はどのような関 わり方をしていますか。 (4) 特に通院の付き添いは一定の需要がある と思いますが、今後拡大させる方向ですか。 また、その際、財政的な支援を含め、笠岡 市の関わり方についてどうお考えですか。	市 長 市 長 〃 〃 〃
4 仁科 文秀	1 J R 笠岡駅 及び周辺整備 について	J R 笠岡駅及び周辺整備については、J R 笠 岡駅南北連絡施設等整備検討委員会で何度も検 討を重ね、平成31年までに完成した整備案では、 令和9年度中の完成を目指してきた。 新市長のもとでは、事業を総合的に再検討す る方針であると認識をしている。 市民の話では、この事業は高木市長の時代か ら計画が進められていると聞く。笠岡の顔であ り、市の魅力の創出を左右する拠点施設として、 市民の関心と期待は大きい。	

	2 市民の交通手段の確保について	(1) できるだけ経費を抑えて、南北自由通路と駅南口改札の新設、そして南口広場をつくりたいとした現在の整備案に対し、基本的な市長の考えを尋ねる。 (2) 笠岡市としての実施可能な整備計画については、いつまでに作成し、どのような手順を経て着手し、整備するのか尋ねる。 (3) 笠岡諸島へ訪れるなどの観光面から、少なくとも南北自由通路の必要性は感じている。海が見え、潮の香りが感じられる笠岡駅にするなど、駅の整備によってもっとまちの魅力発信ができないか尋ねる。 市民がいつまでも住み慣れた地域で安心して生活をするために、地域公共交通の果たす役割は大きく、高齢化が進む現在さらに重要性が増している。令和4年11月に実施した市民アンケートでは、現状の交通環境への不満として、バスの本数が少ない、バス停が遠いとの回答が多い一方、予約したら自宅付近まで送迎してくれる乗合タクシーなどの導入や利用者への支援制度の拡充を求める意見が、複数回答ながら9割を超えている。 (1) 交通弱者が増え市民から利便性を求める声が強くなっている中、令和6年度の井笠バスカンパニーへの補助金が8,600万円を超え、毎年着実に増えている。一方、高齢者タクシーチケット制度や生活支援制度への期待は大きい。本市の交通弱者向けの制度、及び事業者、利用者に対する行政の支援についての基本的な考え方を尋ねる。 (2) 1月から2月にかけて神島内浦地区を対象に、タクシー会社の協力を得て、予約型乗合交通の実証運行が実施された。新しい試みとして期待している。	市 長 〃 〃 市 長 関係部長
--	-------------------------	---	---

		データ分析や市内への展開の検討をこれから進めていくことになるが、現状での認識と展開の見通しについて尋ねる。 (3) 今年度から5年間の「福山・笠岡地域公共交通計画」を見ると、福山市内の路線バスの収益率が下がっている地域では、地域住民との協議を図りながら、乗合タクシーへ転換するとある。本市の路線バスの健全化を考えると、福山市の取組で参考にできるところはないか尋ねる。 (4) 高齢者タクシーチケット料金助成制度は、対象が満75歳以上の高齢者に限っていること、500円の割引券が最大で2枚までの使用であること、使い切れずに残ることがあることなどの問題点が指摘されている。 現在、市民に定着し一番頼りになる制度である。来年度に向けての見直しは進めていくのか尋ねる。	関係部長 〃
5 守屋 基範	1 笠岡市の定住施策の方針について 2 まちづくり協議会の現状と課題について 3 地域おこし協力隊の成果と課題について	人口減少社会に入り、笠岡市が目指す生き残り策についての市長のお考えをお伺いします。 人口が減る中で地域コミュニティの再編が求められ、それを補完する一つの要素が地域のまちづくり協議会の活動ではないかと思います。また、選ばれる地域となるためにはその活動が重要になってくると思いますが、その現状と課題をお尋ねします。 (1) 地域計画の策定状況について (2) 地域担当職員の役割について (3) 財源について 定住施策として平成28年から導入している地域おこし協力隊の笠岡市における成果と課題をお尋ねします。 (1) 若者の起業促進について	市 長 政策部長 〃 〃 政策部長

	4 まちづくり 財源としての ふるさと納税 の活用につい て	(2) 地域人材確保について (3) 選考基準・方法, 選考メンバーについて ふるさと納税の本来の趣旨である「ふるさとへの寄付」という観点から, 寄附対象をはっきりとさせたふるさと納税を推進することが必要ではないでしょうか。 (1) ふるさとのまちづくり協議会やNPO団体等への寄付について (2) 笠岡市の重点施策の財源確保のためのふるさと納税の活用等について(企業版ふるさと納税等)	政策部長 〃 産業部長 〃
6 村上 太志	1 子育て・保 育・幼児教育 を取り巻く環 境について	日本の総人口は1億2,435万人(総務省推計。2023年10月現在)で15年遡った2008年の1億2,808万人をピークに減少局面に入っています。 国立社会保障・人口問題研究所(以下社人研とする)の将来推計では, 約30年後に1億人を割り, 2100年には6,277万人まで減るとされています。少子化についても, 想定を上回るスピード(社人研によると10年以上早い)で進んでいます。2023年の出生数は過去最低の72万7,277人です。 少子化に伴い, 生産年齢人口(15歳から64歳)の割合が縮小すれば, 高齢者を支える現役世代の負担が増え, 社会保障制度の維持が困難になります。さらには, 公的サービスやインフラ(社会基盤)の担い手も不足するでしょう。 笠岡市についてはどうでしょうか。人口4万4,382人(2024年5月末現在)で, 笠岡市人口ビジョンを改定した平成30年の人口は4万9,086人(2018年5月末)。当時のビジョンでは, “年少人口はやや増加することが見込まれていますが, 総人口については年々減少傾向と予測する”と記されています。ただ, この見込みは希望的観測であったのではないかと考えます。	

		現在、出生数は 200 人を割り、2000 年代初めの出生数約 400 人の半減以上となっています。 人口減少・少子社会において、笠岡市は今後どのような子育て環境を整える必要があるでしょうか。保育環境研究所によると、社会性を身につけるためには、特に 0，1，2 歳児の時に集団、それも“子ども同士の関わり”を持つことが重要とされています。 上記を踏まえ、子供たちがより健やかに育つことができるように、また、保護者の皆様がより安心して子育てができるよう、笠岡市の子育て・保育・幼児教育を取り巻く環境について、以下 3 点をお尋ねします。 (1) 人口減少・少子社会における、本市の乳幼児施設の役割について、どのようなお考えをお持ちかお尋ねします。 (2) “全ての子供たちの可能性を引き出す”，“個別最適な学び”，“協働的な学びの実現”の三つを柱とした「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、中央教育審議会から答申が出されましたが、幼児教育についても言及されています。 本市における幼児教育の位置付け、また質の高さについての基準をお尋ねします。 (3) 現在、日本では 3 歳児から 5 歳児の子供たちの保育料、さらには住民税非課税世帯の 0 歳児から 2 歳児の子供たちの保育料が無償化となっています。 そして、本市では、このたび 2 人目以降の子供たちについて、年齢や住民税非課税世帯などの条件なく無償化にする方針だと、市長の所信表明でお聞きしました。 子育て世代の方々にとっては、非常に朗報だったのではないかと考えます。	市 長 教育長 市 長
--	--	--	----------------------------------

		ただ、近隣の市、例えば福山市では2024年9月から笠岡市同様、条件なく2人目から無償化、また井原市では1人目から条件なく無償化となっています。井原市よりも出生数の少ない笠岡市で、なぜ“2人目以降”とするのかお尋ねします。	
7 西山 博行	1 笠岡市公式サイトとSNS等の情報発信について	インターネット環境とスマートフォンの普及により、市民の皆さんの情報収集の方法としてインターネットを使用することが多くなってきました。 笠岡市も各種の情報発信について公式サイト(ホームページ)を使用しています。公式サイトが昨年度リニューアルし、見やすいサイトデザインに変更されたのは、非常に市民の皆さんにとって良いことだと考えます。しかし、俯瞰して見ると、さらに修正や調整が必要と感じる部分があります。 また、LINEは全世代において利用率が高く、プッシュ型で笠岡市の情報を得ることができ、かつ諸手続も可能になる公式LINEを運用するメリットは大きいと感じます。情報発信をインターネット上で展開する必要性はさらに高まると思いますので、総合的にリンクした情報発信を目指す必要があると考えます。 笠岡市の情報を得るためのネット上の入り口は公式サイトになりますので、より閲覧者にとってわかりやすいサイトデザインの構築と、連動する公式LINEへの登録誘導をできるだけ迷うことなく使えるユーザーインターフェースが必要でしょう。 (1) 昨年度リニューアルした公式サイトの基本設計についてお尋ねします。 調整や修正のしやすさもサイトデザインでは重要になります。	関係部長

		サイトは、W o r d P r e s s 等のCMS (コンテンツマネジメントシステム)で作成されているのでしょうか。また、調整修正をする場合の流れはどのようになっているのでしょうか。公式サイトの設計、調整、修正にあたる担当はどのようになっているのでしょうか。	
		(2) 公式サイトはレスポンスWebデザインになっていますが、スマートフォンから閲覧した場合、縦に情報がのびているので、画面スクロールを何度もしなければ下部に届かず、他の自治体と比較しても情報へたどり着くまでのストレスがあると感じます。スマートフォンから見た場合のデザインをより見やすいものに調整することはお考えでしょうか。	関係部長
		(3) 友達登録者数が9,000人を超える笠岡市の公式LINEを使ったLINE申請システムは、市民の皆さんにとって便利なのですが、公式サイト上に、公式LINEへの登録を促すバナーやテキストアイコンがありません。ページの最下部にLINEのアイコンがあるのみです。 他の自治体も同様のデザインが多いのですが、笠岡市の場合、LINE登録をしようと思ってもサイトのどこにあるのか分からないと感じます。ページトップ、もしくは分かりやすい位置でより登録しやすくする調整は可能でしょうか。	〃
		(4) 公式LINEの使い方が分からない市民の方が参考にする解説ページが「デジタル推進課＞LINE申請システムがスタート」の場所にあり、検索をかけないとたどりつけない設計です。	〃

		また、使い方の部分もごく一部分だけの説明になっているため、実際どのような操作をすれば良いのか戸惑う方も多いでしょう。今後、公式LINEの使い方を詳細に解説したページをサイト内に作成する予定はありますか。 (5) 広報かさおかの紙面の中にQRコードが多数配置されていることから、最新情報は笠岡市の公式サイトへ誘導する流れを考えられていると思います。 公式サイトの役割は、最新の情報を得るための役割と過去の情報をストックする保管庫の役割があると考えます。しかし、過去の知りたい情報にたどりつけない場面が多く、それは階層の深さが問題だと感じます。 公式サイトの情報ストックについての考え方(情報の保管期間)と情報にアクセスがしやすい構造への調整予定についてお尋ねします。	関係部長
	2 地域の各団体が協力して行うまちづくりについて	笠岡市のみならず全国的に課題となっている人口減少と高齢化の問題は、歴史や文化、伝統の継承、地域の組織の維持に多大な影響を与えています。 現状を把握し課題を洗い出し、地域で課題解決に向かうためにはどのようにすればよいのか、まず地域内連携の部分から再考する時期にきていると感じます。 (1) 地域の皆さんの自治を含めた地域のまちづくりのために、笠岡市では協働のまちづくり課が地域支援として「まちづくり計画策定」を行っていると思います。まちづくり計画策定の概要と現状の策定状況及び今後の予定についてお尋ねします。	関係部長

		(2) まちづくり計画策定をほぼ完成している地域とこれから策定に進む地域について、地域住民の皆さんのまちづくり計画策定に対する関心度と策定を進めていく一つ一つの段階をこえていく中での意識の変化はどのようなものでしょうか。 (3) 地域の各団体が連携をしている好事例として、笠岡市北部の新山地区が挙げられます。新山自治会(まちづくり協議会)、新山公民館、にいやま新栄会(青年団組織)の横連携と情報共有の高さが、様々な行事等の運営を円滑に行い、全年代を巻き込んで地域を盛り上げている大きな要因となっています。横連携は地区内だけではなく、新山地区と吉田地区、北川地区の公民館3館が協力した地区連携(北部3地区合同親睦グラウンドゴルフ大会を実施)に進み始めました。 このような取組をしている地域に対して、笠岡市としては今後どのようなサポートをして伴走するのかお尋ねします。	関係部長 〃
8 宮崎 秀夫	1 笠岡湾干拓の臭気対策について	(1) 臭気をどの程度減らすことを目標とするのか。 (2) 臭気が改善されたとする状態をどのような基準で判断するのか。 (3) 9月頃から、畜産農家7軒から調達した牛ふんを使ったバイオガス発電所が稼働するが、バイオガス発電所で処理できない牛ふんの処理方法はどのようになるのか。 (4) 笠岡湾干拓地内の臭気に係る条例施行規則の規制基準6に「堆肥のは場への散布に当たっては、市民の日常生活の妨げにならないよう配慮すること。」とあり、内容として「散布に当たっては、悪臭などが市民の日	市 長 関係部長 〃 〃

		常生活の妨げにならないよう、時間帯や風などの状況などに配慮すること。また、散布する堆肥は、未熟なものとならないように努めること。」とあるが、臭気問題を解決するには臭いの無い完熟堆肥を散布する必要があるのではないか。	
9 藪田 誠二郎	1 「笠岡市民の幸せ」について	(1) 市民から、この笠岡市をどういう方向に向かっていくのかを示してほしいと伝えられます。市長も所信表明で伝えられた「笠岡に暮らす私たち市民が笠岡に愛着を持ち、笠岡に暮らしてよかったと思えるまち」を叶えるために、市民が幸せを実感できるような施策について、市長の考えを尋ねます。 (2) 子供たちが、今、笠岡市で過ごし、体験したことが、そのまま未来に影響を及ぼします。尊い体験、幸せな体験が多いほど、将来の活躍と、この故郷笠岡にも愛着を持ち、笠岡で暮らし続ける人、また将来戻ってくることを期待できます。 育成の施策について、市長の考えを尋ねます。 (3) 幸せを政策の中で図るものとして、ブータン王国は国民総生産(GNP)ではなく、国民総幸福量(GNH)というものを国策としています。日本国内でも、熊本県(AKH)、東京都荒川区(GAH)、静岡県浜松市(GHH)などが、地域幸福度指標を活用されています。 笠岡市でも、市民の幸福度を量るものとして導入はできないでしょうか。市長の考えを尋ねます。	市 長 〃 〃